



「見たり、聞いたり、探ったり」No.207

通算 No.359

青 木 行 雄

沖縄県石垣島(石垣市)探訪記

亜熱帯の島、石垣島は、自然の美しさにあふれています。サンゴ礁に囲まれて、エメラルド色に輝き、珍しい樹木や花々が一年中咲き誇っています。

縁あって平成29年3月18日の連休に2泊3日で念願だったこの石垣島に行くことが叶った。

飛行機で東京から約3時間半、九州までの約2倍の距離である。台湾にすぐ近い。

行った日の3月18日は海開きで、海水浴解禁の日であった。羽田を出る時の朝の気温は5度であったが、石垣島に着いたら、いきなり25度あって、オーバーコートから半袖となる。田植が終わりの時期で、ここは3毛作と言う。年中花が咲き果物も豊富である。山は緑が多く、本土のような紅葉はない。海は360度エメラルドブルーでどの海岸もすてきですばらしい。砂浜や岩浜等といろいろあるが、どの海岸もサンゴの化石でいっぱいであった。同じ砂浜でも「星砂の浜」と言う所もあって、夢とロマンがいっぱいである。小石や大き目の石もサンゴの化石が多く、この石ころの数々を見ているだけで楽しい時間を過ごすことが出来る。

石垣島の石垣市は、北緯24度20分、東経124度9分、日本最南端の都市である。そして「八重山諸島」と言って、石垣島を中心に「^{いりおもてしま}西表島」・「^{たけとみしま}竹富島」など19の島からなるという。

この石垣島を中心に島々の探索がまた最高で今回は「西表島」と「竹富島」に行ってきた。「西表島」を何故「いりおもてしま」と言うのかと聞くと、太陽が東はあがると言い、西は沈むことをいけると言う所から、「西表島」となったらしい。そこで、あがる島はあるかと聞いたらないという。とにかくこの日本最南端の都市には自然の魅力がいっぱいで、せかせかと毎日を過ごしている私には最高の3日間であった。

この八重山の島で生まれた希望にみちた少年は小学校、中学校を西表島で成長し、高等学校をこの石垣島で下宿生活で過ごして勉学に励んだ。そして主席で卒業、本人の大きな夢と希望をいだいて東京の大学に進学、仕送りなしの青年はアルバイトで生計を立て苦労を重ね、無事大学を卒業する。アルバイト先の建設会社に就職し、単年で独立開業して苦労



※石垣空港正面玄関口。近年開業し、東京より、直行便ANAで2便、沖縄経由だと10便以上あるようだ。

の後成功する。結婚して子宝にめぐまれ長男も成長した。近い内に社長を長男に譲り、いずれ故郷に帰りたいと今「石垣島」の港近くの一等地に豪邸を建設中であった。

こんな縁で今回この石垣島へ同行することになった。

そんなわけで、彼は近年は帰ることも多く、顔なじみの知人も多く、土地に詳しい。乗用車も東京から送り、いろいろ案内を頂いたわけであった。

車で案内をして頂きながら、成功して故郷に帰って見る海や街並みを案内する彼の目は輝いてみえた。

故郷を持つ私にも、風景を見ながら彼の気持が良く理解出来る。故郷ってすばらしい心のよりどころであり、年齢を重ねるほど懐かしく感じる。

石垣島の魅力をもう少々

空の青さと島の緑がどこよりも濃い。

2014年(平成26)1月27日付のニューヨーク・タイムズ紙に、「2014年世界で行くべき52ヶ所」に、日本国内からは石垣島(18位)と長野県野沢温泉(41位)の2ヶ所がランクインしたという。国内トップとなった石垣島が選ばれた理由に「ここ数年で最も円安になっており、新石垣島空港の開港でこれまでにない交通アクセスが整えられて便利になり、関西空港からも格安航空会社のピーチも就航している」と紹介しているらしい。さらに「石垣島はせかせかした東京からはるか遠くにあり、まだ発見されていない未開発の地も多く、きれいなビーチや珊瑚礁の海もあり日焼けしたサーファーたちの居場所だ」と紹介しているという。

こんな石垣島を楽しみたいのなら、やっぱりレンタカーを借りるか、定期観光バスを利用すると良いと思う。

初体験の私には見るもの、聞くものすべてが新発見で、感動の連続であった。

地元のガイド紙を参考に街を歩くのも楽しみの一つでおもしろく楽しい。

その一つを紹介する。もし「石垣島」に行かれた時にはこの街を歩いてみてほしい。



※石垣島の海岸である。サンゴの化石がゴロゴロしている。砂も大半がサンゴの小つぶらしい。海は青々である。



※サンゴの化石の玉石がわかると思うが、至る所にころがっている。



※砂浜のこの様子もサンゴがいっぱいゴロゴロしている。

レトロな雰囲気はそのままに新しい生まれ変わりつつある街。

古くて新しい「18番街」を歩いてみた。

昔、石垣島には「18番街」と呼ばれる繁華街があった。あったと過去形になっているが、実はこの「18番街」は今も残っている。では何故過去形で書いたかという、かつての「18番街」というと、怪しい雰囲気の店やいかがわしくてけしからん佇まいを見せる店が多く・・・もちろん常連客が通うちゃんとした健全な店もあっただろうが、ほとんどの店の入り口が一見さんお断りの雰囲気であっただろう。そのため「18番街」を歩いている人はその地に詳しい地元の人か、怪しい雰囲気に誘われてふらつく観光客くらいの時代があったという。

「18番街」はユーグレナモールの西側にある昔からの飲み屋街で、かつて石垣島で有名な「十八番」という料亭がその名の由来になったという。多くの客が集まる「十八番」に倣って、その周辺にたくさんの料亭や割烹、スナックやバーなどが林立し、活気にあふれる場所になったことから、いつしかこの地が「18番街」と呼ばれるようになった。

今ではこの石垣島の繁華街といえば美崎町が知られているというが、この美崎町が生まれる前までは飲み屋街といえばこの「18番街」が中心であったらしい。

美崎町が誕生したのは昭和41年3月、昭和38年頃まで石垣島の港は水深が浅く、大型船が接岸できなかったことから、新しく石垣港をつくるために海を深く掘り下げていった。その時にそこから出た土砂で浅瀬の海を埋め立ててできたのが美崎町である。やがて新しい美崎町に、若い人を相手にするスナック、バー、居酒屋ができ賑やかになっていくのに反比例して「18番街」は徐々に廃れていった。そして残ったのは人生の悲喜こもごもを知る昔のお姉さんたちが働くスナックやクラブ、小料理屋といった古い店や、いかがわしい店だけになり、やがて石垣島のディープゾーンと呼ばれるようになっていたのである。

数年前に風営法の改正で「18番街」はシャッターの閉まった店や古ぼけた看板が虚しく残った店が増えたが、この古ぼけた昭和の面影を残す雰囲気が逆にオシャレでレトロと若い人たちが注目するようになり、



※星砂の浜と言う海岸で、星の形の砂である。



※とにかくブルーで輝いている。なんともすばらしい。



※パラビドーの農園。珍しい花と果物がいっぱい。

最近ではこの場所にお店を構える人も増えており、中でも石垣島近海で獲れた魚介類や島の旬の野菜、新鮮な食材、石垣牛などを使った居酒屋や創作料理の店、大衆的な酒場、海産物といった飲食店や料理屋が点在するようになり、新たなグルメスポットとして注目を集めているのだ。

石垣島に行って、夜の散策が叶えば、この「18番街」に足をのばして見るのもおもしろいと言うわけだ。

石垣島と言えばやっぱり、プロボクサーの「具志堅用高」がいる。離島に出る玄関口の船つき場に具志堅の銅像が目を引き、大きい像ではないが等身大と思われる。

具志堅用高は1955年(昭和30)6月この石垣市に生まれ1971年(昭和46)沖縄県興南高校ボクシング部入部、1973年(昭和48)8月インターハイ・モスキート級で優勝する。1974年(昭和49)5月プロデビュー。1976年(昭和51)10月WBA世界ジュニアフライ級チャンピオン獲得、1980年(昭和55)10月、世界タイトル連続13度防衛、1981年(昭和56)3月現役引退、26才であった。そして、2015年(平成27)6月、国際ボクシング殿堂入りした。

生涯戦績、24戦23勝(15KO)1敗。

この石垣島では超有名人である。

歌手に「夏川りみ」という女性がいる。本名は玉木りみといい、NHK紅白歌合戦にも何回か出た歌手であり、代表曲は「涙そうそう」で南国のムードいっぱいの歌である。

女性の姉妹が6人いて、市内にカラオケスナックを2～3店経営しており、島にいる時は店に出て客に歌のサービスをするらしい。

日本最南端の市石垣島は人口5万人位で本土とかなりの温度差があるが、一番良い時期はやっぱり、3月中頃から4月らしい。気温は20度から25度あたりである。秋はやっぱり台風が多く、出くわすと大変のようであった。

人生高齢になると感動が少なくなるという。感動する回数が多い程、若さを保つ秘訣と言われる。すばらしいこの石垣島、八重山諸島をおすすめしたい。初めて見るこの島は私にとって感動の連続であった。



※食したことのないフルーツがあった。年中熱帯の果物が豊富にある。



※石垣港にある「具志堅用高」の像。なんと納税PRのタスキをかけていた。



※石垣島にあるお寺の入口。中国、台湾風の寺である。

※「八重山の島々」についてまたの機会に書きたい
と思います。ご期待下さい。

平成29年4月23日

参考資料

石垣島観光ガイド等



※サングの石垣で囲った民家、防風石垣。至る所で見
かけられる。



※石垣港。ここから八重山諸島に船が出ている。



西表石垣国立公園・川平公園から望む川平湾
出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>